目次

はじめに：本レポートの内容と各章の概要

概観：さまざまなソフトウェアディファインドビークルに関するSBDの主な調査結果の概要と関連レポート

要旨：本レポートの重要なポイントおよび結論

基本情報：本書で取り上げるアーキタイプを説明し、帯域幅、用途、機能評価、コストの観点からそれぞれの特長を考察

分析：今後10年間におけるSDVの5つの主な動向を考察・分析し、効果が期待できるソリューションについてのSBDの見解

サマリー表：各OEMのアーキタイプ対応状況と、現在、5年後、10年後の主要プラットフォームの概要

将来の展望：OEM組織においてSDVのメリットが実現される時期を予測するために、将来の推進要因と阻害要因をもとに4タイプのOEMを考察

関連レポート

ソフトウェアディファインドビークル：組織構築と戦略 **レポート番号: 403**

本書では、SDVを新車ラインナップに取り入れるための様々な戦略を提示します。その過程において、業界の主要プレイヤーがSDV開発にあたってどのように組織を構築しているかについて解説するとともに、ステークスホルダーが現在追求している製品、サービス、ビジネスモデルを明らかにします。また、組織的な観点からSDV開発における課題と制約をまとめています。

レポート番号：#402

CON

Connected & Autonomous

ソフトウェアディファインドビークル将来予測

顧客の嗜好の変化や不確実性により業界がますます複雑化する中、自動車メーカーはあらゆる事態に警戒を強めており、新たなソリューションを模索しています。自動車メーカーはより革新的な技術を継続的に導入したり、E/Eアーキテクチャやソフトウェアの開発、SDVの実現を目的として戦略やパートナーシップを再構築するなどしており、この傾向はより顕著になっています。

車両のE/Eアーキテクチャと採用されたプラットフォームや分離に対応し、まだ導入されていないソリューションに対しても対応できるようにするためには、ソフトウェアソリューションについて強力な戦略を策定し、動的に進化できる体制が必要となります。

本書『ソフトウェアディファインドビークル将来予測』では、地域別、セグメント別のアーキテクチャの今後の成長について、根拠となる評価に基づく予測を提示しています。今後10年間の予測を通じて、主要OEMグループが将来のE/Eアーキテクチャ要素をどう展開していくと見られるかを解説した上で、そうした要素が遂げるであろう進化について評価します。付属のExcelデータベースには、欧州、米国、中国における車両プラットフォームおよび車両アーキタイプの採用率と採用車両台数のデータを掲載しています。

対象市場

欧州　米国　中国
日本　グローバル　その他

レポート発行頻度

毎年更新　半年更新　四半期更新　毎月更新　ワンタイム

レポート形態

PDF　PowerPoint　Excel　Online

ページ数

84

本書について（調査対象・範囲）

本書では下記について解説しています。

> SDVに特化したイネーブラーやテクノロジーはどのような進化を遂げると予想されるか？

> OEMの戦略と選択は、SDVの導入ペースと今後10年間の販売台数にどのような影響を与えるか？

> トレンドとSDVの採用は地域によってどのように異なるのか？

> SDVへの移行に伴う、OEMやサプライヤーへの影響とは？

> 従来システムはどのような役割を果たし、これらのプラットフォームはいつまでサポートされるのか？

SBDカスタマーポータル

ご契約いただいたレポートへはお客様専用ポータルサイトからアクセスいただけます。

ポータルサイトのアカウントはご契約企業ごとに作成され、ご契約企業に所属する方であれば登録ユーザー数に制限はございません。

ご契約状況の確認や、ポータルサイトへの新規ユーザー登録をご希望の場合は、SBD Automotive ジャパンまでお問い合わせください。

本書に関するお問合せ・お見積り依頼

「ソフトウェアディファインドビークル将来予測」

お問合せ・お見積り依頼 >

サンプルレポートの無料ダウンロード >